

(様式第4号)

上田市廃棄物処理審議会 会議概要

1 審議会名	第5回上田市廃棄物処理審議会
2 日時	平成29年12月19日 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	上田地域広域連合上田クリーンセンター 4階 会議室
4 出席者	中村彰会長、金子幸恵副会長、太田芳枝委員、熊谷唯委員、栗田たか子委員、小林裕美委員、小柳繁弘委員、齊藤ゆり子委員、佐藤昭秀委員、城田浩靖委員、関川久子委員、森本英嗣委員
5 市側出席者	山口生活環境部長、峰村資源循環型施設建設推進参事、小坂資源循環型施設建設関連事業課長、佐藤資源循環型施設建設関連事業係長、両角廃棄物対策課長、岩下リサイクル推進係長、春原丸子市民サービス課生活環境担当係長、堀内真田市民サービス課長、下村武石市民サービス課長、北島ごみ減量企画室長、鈴木ごみ減量企画係長、田中ごみ減量企画室主任
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 3人
8 会議概要作成年月日	平成29年12月20日

協議事項等

1 開 会 (山口生活環境部長)
2 会長あいさつ (中村彰会長)
3 議事
(1) ごみ減量アクションプラン (素々案) について
・資料に沿い、北島ごみ減量企画室長からごみ減量アクションプラン (素々案) について概要を説明
・以降、質疑応答
(委 員) 「Ⅲ アクションプランの目標-1 目標値」の注釈で、平成28年度の1人1日あたりの排出量の算定根拠が異なる理由が分かりづらい。
(事務局) 修正する。
(委 員) 「Ⅲ アクションプランの目標-1 目標値」で、平成34年度の事業系可燃ごみ目標値11,000t/年について、どの種類のごみが多くて、どの業種に行動してもらいたいかさないと減量につながらない。
(事務局) 業種毎に代表する取組みを記載したい。
(委 員) ごみ減量アクションプランは、一般市民の目に触れるか。
(事務局) ダイジェスト版を頒布する。また、広報等を通じて周知する。
(委 員) 細かくし過ぎると市民には分かりづらいが、「市民一人ひとり」が一番重要。
(委 員) 「Ⅳ 目標達成のためのアクション (施策の展開) -3 行政のアクション」で、自治会説明会について、市職員に来てもらったが、参加者は役員が多く、比較的若いお母さんやお年寄りほとんどいない。また、分別をきちんとできる人が参加し、本当に説明を聞いてほしい人が参加しない。自治会単位ではなく、PTA 役員会や老人会等で細かく説明会をやってもらいたい。市職員が全て対応するのは大変なので、ごみ減量アドバイザーにやってもらいたい。また、ごみ減量アドバイザー経験者が地域に少なくとも6~7人はいると思うので、やってもらいたい。エコ・サポート21も協力できることはする。
(事務局) ごみ減量アドバイザーは基本的に2年で交代となり、かなりの人数が関わっている。そういった方々に協力してもらい、色々な場面で啓発をしていきたい。
(委 員) ごみ減量アドバイザーは最長2期4年までとなっている。経験者に市から依頼して説明会をやってもらおうか。
(事務局) 研究したい。
(委 員) 自治会連合会では各種委員の選考に苦労しているので、過去に実績のある人をお願いするのはいい案だと思う。なお、説明会を開催しても同じ人しか出てこないのでは、私の自治

会では説明会を開催していない。男性はごみの分別に関わらない人が多いので、女性の集まる機会を模索している。

(委員) 同じ人がごみ減量アドバイザー2期4年以上やってしまうと、アドバイザーの住んでいる自治会ではごみの分別等が進むが、周りの自治会に広がっていかない。自治会で順番に選出してもらうため、任期を最長2期4年までと区切っている。アドバイザー経験者には任期終了後も地域の中のリーダーとして自主的に活動してもらうのが本来の目的で、今も資源物回収等に立ち会っている方もいるが、年数の経過とともに継続して活動してもらえなくなってきた。

(委員) ごみ減量アドバイザーについて、当初は旧上田市で21名全員女性だったが、現在は丸子・真田・武石地域が増え33名となり、男性が増えた。なり手がいないので自治会役員を終えた人がやっているところもあり、高齢化が進んでいる。ウィークエンドリサイクルや資源物回収の立会等、活動状況も人それぞれである。男性の場合は自治会の集まりに出やすいが、一方、女性の場合は婦人部の集まりに出やすい。

(委員) どんなに素晴らしいアクションプランを作っても市民が動かないと成功しない。

(委員) 丸子地域では、小柳産業㈱で小学生に学習会を開いていて、親は子どもから教えられる。自治会説明会も役員会に合わせてではなく、一般の人が集まれる日にしてもらいたい。市民がやらないとごみは減らない。小学生はいいが、学年が上がるにつれてごみの分別等できなくなるので、中学生・高校生のカリキュラムに入れた方がいいのではないかな。

(委員) 「I アクションプランの趣旨－5 計画期間」で、中間見直しで数値目標を見直すか。

(事務局) 計画期間10年で社会的変化が当然あり、資源循環型施設の動向も考慮する必要がある。時宜をとらえて見直していく。

(委員) 目標値の達成状況の見直しがあってもいい。例えば、中間見直し・改定の前年に、一般市民がどれだけ計画を理解し、どれだけ実施してきたかアンケートを取ってもいい。

(事務局) 目標値の達成状況について、計画の進行管理が重要になってくる。アンケート等も含めて市民の理解度を計測したい。

(委員) どこを優先するか整理した方がいい。

(事務局) 参考にしたい。

(委員) 「市民のアクション」で、生ごみの水切りがごみの減量につながるものが当たり前のことになっているが、分からない人が多い。臭いが減り焼却炉の負担が減ることを記載した方がいい。

(事務局) それぞれの項目をどこまで深掘りさせるか決まっていない。あまり深くし過ぎると逆に分かりづらいので、検討する。一番は、目的を知ることが大切なので、啓発の際も気を付けたい。

(委員) 落ち葉も濡れたまま指定袋に入れて出せば重くなるので、乾かした方がいい。

(委員) 生ごみを堆肥化できる家とできない家があるので、それぞれの方法が必要ではないか。

(事務局) 農村部と市街地でそれぞれできることをやってみようと思わせる広報に努めたい。

(委員) 市民一人ひとりが興味を持たないとできないので、いかに興味を持たせるか。先日の広報うえだ12/16号は表紙で目立っていてよかった。

(委員) 小さい頃からの教育が重要。幼児、小学生、中学生の間に週一あるいは月一度ごみについての授業を作ればだいぶ良くなると思う。

(委員) 上田地域の小学4年生が毎年エコ・ハウスに見学に来ており、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の優先順位の話をするが、学校によっては3Rを教えてきていないところもあるので、教師の理解を促す必要がある。

(委員) 教育委員会も巻き込んでいく必要がある。

(委員) 「IV 目標達成のためのアクション(施策の展開)－1 市民のアクション－◆アクション2 生ごみは堆肥にして利用」で、生ごみ堆肥化は全員できないので、「◆アクション1 生ごみの3切り」の中に入れて方がいいのでは。

(事務局) 乾燥生ごみについて「やさいまる事業」が記載してあるので、書き方を考える。

- (委員) 生ごみ堆肥化を2番目に挙げた理由は。
- (事務局) 発生抑制、再使用、再生利用の順番で記載している。
- (委員) 例えば、畑のある人はコンポスト、ベランダのある人は「ぱっくん」が使えるとフローチャートで、1ページ図示すればいい。
- (事務局) 検討したい。
- (委員) アクションプラン実施及び達成のメリットが明記されていない。期待される効果の一つとして、ごみ処理費用が削減され他の行政サービスに回すことができる。動機付けにつながるのだが、基本計画にもあまり記載されていない。
- (事務局) 「IV 目標達成のためのアクション（施策の展開）」の冒頭に記載しているが、踏み込んで書いていないので、項目の出し方を含めて工夫したい。
- (委員) 記載するのであれば、中間でもいいが、読み始める冒頭がいい。
- (事務局) 市民に対するメリットという所で入れたい。
- (委員) 広報段階では、ダイジェスト版でいかに男性にやってもらうかが大切。実際やっていない男性が多く、そういう人が会社で事業系ごみを分別しないで出してしまうので、事業系ごみが減らない要因の一つではないか。
- (委員) 以前に比べ男性も意識するようになってきたと思う。
- (委員) ごみの定義について、「ごみは汚い物」という意識が強い。汚くないごみの出し方をみんながすれば、資源循環型施設も「迷惑施設」というイメージではなくなる。生ごみは夏場臭く週二回の収集でもすぐ腐るため、パッカー車が臭いをまき散らす原因になる。色々な人の手でごみが処理されているので、「ごみだから汚くていい」のではなく、「ごみだけどきれいに処理してくれる人のことを考えて出す」ことが大切。意識改革が必要で、有料化の際に記名式にしたことで、ごみの出し方がきれいになった。生ごみの水切りをするようになってきたが、もう一息。収集量に応じて委託料がかかるので、水切りは重要。

(2) ごみ処理基本計画パブリックコメント（意見募集）の実施について

- ・資料に沿い、鈴木ごみ減量企画係長からごみ処理基本計画パブリックコメント（意見募集）の実施について概要を説明
- ・質疑応答なし

(3) 事業系ごみ減量への取組状況について

- ・資料に沿い、田中ごみ減量企画室主任から「事業系ごみ減量マニュアル」の作成、事業所ごみ処理実態調査結果（暫定版）について概要を説明
 - ・以降、質疑応答
- (委員) 事業所ごみ処理実態調査について、業種の割合は怎么样了。
- (事務局) 抽出の際、地域性と業種を考慮している。割合は次回報告する。
- (委員) 生ごみの処理方法について、「畑等で自家処理」と答えた業種は。
- (事務局) 飲食業、旅館業。
- (委員) 「自治会資源物回収又はウィークエンドリサイクルを利用」と選んだ事業者が多いが、本来利用してはいけないのであまりよろしくない状況ではないか。同様に、ごみ集積所を利用している。
- (会長) 業種の割合等、最終的にまとめた結果を報告してもらいたい。
- (事務局) 承知。

(4) 今後開催日等について

- ・資料に沿い、鈴木ごみ減量企画係長から今後の審議の予定等について概要を説明
- (事務局) 第6回は「平成30年1月25日（木）午後1時30分から、上田クリーンセンター」。第7回は審議の進捗状況により実施する。
- (会長) 答申は「平成30年2月27日（火）午前10時から11時まで、上田市役所本庁舎

3階第1応接室」としたい。正副会長及び希望者が出席する。

(委員) 承知。

(事務局) 答申(案)は次回の審議会で確認する。また、答申の出席者は次回確認する。

(5) その他

(委員) エコ・サポート21で小諸市の廃棄物処理施設を視察した。「クリーンヒルこもろ」はとてもきれいな焼却施設で、30年以上前にできた上田クリーンセンターと比べかなり差があると実感した。入浴施設も併設しており、時間外は地域の方がボランティアで運営しており、とても素晴らしい施設になっている。また、「浅麓環境施設組合 汚泥再生処理センター」は生ごみを堆肥化しており、臭いがしなかった。ごみ減量アクションプランでも生ごみがターゲットとなっており、上田市では生ごみ堆肥化施設の方向性が定まっていない。身近にある施設なので機会があればぜひ行ってもらいたい。

4 開 会 (山口生活環境部長)